

七高クラブ 能登巡検

R6.6.8
NANAOHIGHSCHOOL
七尾高校1-2年生

はじめに

1月1日の地震では、能登外浦で大規模な地盤隆起が発生しました。

今回の巡検ではその現場で地盤隆起の様子や隆起したことによって観察できるようになった潮間帯での生物の分布について、金沢大学からロバート・ジェンキンス先生を講師として呼びびて、現地で観察・調査を行いました。



金沢大学

ロバートジェンキンス先生

研究室紹介

ジェンキンス研究室の専門分野は「古生物学」「地球生物学」「深海生物学」です。古生物学をベースにしつつ、化石と現在の両方扱いながら地球と生物の関係を明らかにすることを目指しています。特に地球と生物の関係の本質を捉え、深海のメタン沸水や熱水などの地球内部と生物圏の接点に形成される「極限環境生物」の進化を研究しています。

(中略)
ようこそ、地球生物学の世界へ！
金沢大学ホームページより抜粋

内容

・鹿磯漁港

輪島市門前町にある漁港。1月1日の地震により約1分間に4m程度の地盤隆起が発生している。海面下の生き物は、ほぼ当時のまま残っている。



Googlemap より



・大きな打撃を受けた生き物

日本海は干潮の差が30cm程度と、太平洋と比べて小さい。潮間帯（満潮と干潮の差により移動する海岸線の間の部分）の生き物は、4mの隆起により、陸に取り残されている可能性が高い。痕跡が残っている間に調査する必要がある。

